

Science Report of Kushiro City Museum

釧路市立博物館報

NO.429



2022.3

我が心の澤四郎「フィールドミュージアム構想」

クスリ凸凹旅行舎は自然ガイドと地域出版を生業とする。一人でやっているのだから二足の草鞋、今風に云えばマルチワーカーである。

博物館とは付かず離れず「縁」がある。前職は釧路市職員で、経済畑中心に歩んできた私にとって、博物館は憧れの職場であった。

縁を示す三つのエピソードを紹介しよう。1985年に水産魚揚場で勤務していたとき水産資料展示室（現在の「マリントパスくしろ」）建設の担当者となった。ノウハウのなかった水産部は博物館に助けを求めた。新博物館の開館まもなく超多忙中、郷土史の佐藤宥紹さん、湿原の新庄久志さんという両エースのサポートを受け、無事オープンにこぎつけた。

この時の館長が澤四郎さんであった。

道路管理課に異動となった私は米町地区の区画整理事業をお手伝いして、旧田村邸（現在の「米町ふるさと館」）の展示作業をすることとなった。専門家のいない状態の中、またしても澤館長の裏指令により、佐藤宥紹さんの強力サポートで何とか形になった。

役所という大きな組織に属しているながら、当時から私にはマルチワーカー気質があった。

そんな私を澤さんは何かと目をかけてくれた。「今度、博物館に呼ぶからね」と声をかけられ真に受けた私は、年に一度の異動希望届に「博物館」と書いたこともあった。

しかし、職場としての博物館とは縁のないまま澤さんは退職された。呑兵衛の教育長と澤さんから居酒屋に呼ばれてご馳走になった。何を話したのか全く記憶がない。それから数日後、澤さんは急逝された。

私の最後の職場は阿寒湖温泉であった。異動早々、アイヌシアター建設の仕事に携わった。観光関係者、アイヌコタンの面々や前田一步園と忌憚なく意見交換するために、阿寒の勉強をした。この時の資料に『阿寒川水系

総合調査報告書』があった。澤さんが中心となり博物館が前田一步園の協力を得て行なった総合調査である。さすが博物館！

この三つのマイルストーンに澤四郎というキーパーソンが登場した。

印象深いキーワードがある。〈フィールドミュージアム〉である。何度か澤さんからもお聞きしたが、構想の全体像を解かれたわけではない。ただ私の中ではフィールドミュージアムが遺り、それは徐々に成長し、輪郭をあらわにしつつある。

市役所を退職し、自然ガイドと地域出版をはじめたのは、私のフィールドミュージアム構想の一環である。松浦武四郎著『久摺日誌』はこの地を世に知らしめた初の観光ガイドブックである。私も旅の「予習」「実地」「復習」を〈ガイド〉と〈ブック〉で支援する「一粒で三度美味しい旅スタイル」を目指している。

澤さんのフィールドミュージアムには理念や具体的な構想もあったのだから私にはそれを知らない。しかし箱や組織を超えて、地域の人々や自然風土と関りながら釧路の博物学をバージョンアップしていった姿勢には共感する。

阿寒で職場とは別に、若い仲間たちとはじめた松浦武四郎の足跡をたどるオールドルートの探訪（「阿寒クラシクトレイル」）は現在、環境庁の「国立公園満喫プロジェクト」との連携で道東三空港を結ぶロングトレイルルートに発展の様相を見せている。幕府が拓いた道（網走山道、斜里山道）、アイヌの山越えの道（ルベシベ）、武四郎の探訪ルートなどをつないで現代に蘇るロングトレイルは、温故知新のフィールドミュージアムである。

縁をつないでフィールドミュージアムを拓き、未来の道を歩きたい。

塩 博文（クスリ凸凹旅行舎）

3月号目次

我が心の澤四郎「フィールドミュージアム構想」	塩 博文	2
企画展「釧路のまちと人」の開催	戸田 恭司	3
企画展「紙面で振り返る戦後・釧路～釧路新聞創刊75周年～」	石川 孝織	7
はたして「湿原の忍者」は浸透したのか？	貞國 利夫	9
チャランケチャシ	加藤ゆき恵・城石 梨奈	11
博物館ニュース		12

〈表紙写真〉 2021（令和3）年度にピリオドを打った2つの“風景”…撮影日の2021年8月16日は、日本製紙釧路工場が101年にわたる紙の生産を終了した日。煙突からの煙は、産業都市・釧路の象徴の一つでした。新釧路川をわたるディーゼルカー「キハ40」は国鉄釧路機関区（当時）に1979（昭和54）年から配置され、普通列車を中心に活躍しましたが、2022年3月のダイヤ改正でJR根室本線・新得～釧路の定期列車から引退となりました。（石川孝織）

釧路市立博物館館報 No.429 2022年3月号 2022年（令和4年）3月31日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809（博物館）・43-0739（埋蔵文化財調査センター）/ FAX 0154-42-6000

釧路市立博物館Web <https://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>

museum@city.kushiro.lg.jp（博物館） maibun@city.kushiro.lg.jp（埋蔵文化財調査センター）

発行責任者 高嶋 晃治 編集 貞國 利夫・石川 孝織 印刷 榎藤プリント